異邦人に向けてパウロが語った神

使徒１７；１６～３４

２０１６年9月１０日
西九州伝道所
佐々木正明

わたしたちは、世界で最もクリスチャンの少ない国に住んでいます。このような中で神の子として選ばれたことは、驚くべき恵みです。また同時に、大きな責任、任務を負わされているのです。

その任務とは、わたしたちが神の恵みを伝えることです。異邦人、すなわち日本人のように、天地創造の神を知らない人々に、神の恵みを伝えるよい模範が聖書に記されています。使徒パウロのアテネにおける説教です。この記録から、私たちにとって重要なことを学び取りましょう。

Ｉ．天地を創造された神

神を知らない人には、わたしたちの神がどのような方であるかを、確実に伝えなければなりません。多くの神々が拝まれている中で、まず、わたしたちの神は天地をお造りになった方であることを、知ってもらうのが大切です。

Ⅱ　すべての良き物を備えてくださる神

この神は怒りの神でも、災いをもたらす神でもなく、人間のために、すべての良き物を備えてくださる神であることを、はっきりさせます。(使徒 14：15～17）太陽を昇らせ、雨を降らせ、作物を稔らせ、魚を増やし、家畜を成長させてくださる、恵み深い方であることを伝えるのです。

Ⅲ　知られないまま拝まれている神

ところが神は見えない方であり、誰にも知られないまま、拝まれて来ました。すべての

人間は霊である神に似せて造られ、神を感じ、神を礼拝し、神に祈る本能を持っているために、いつでもどこでも、必ず神を礼拝して来ました。ところが、人々は天地創造の神を知らないまま、良く分からないまま、感謝し、怖れ、敬い、あがめてきたのです。

Ⅳ　熱心に追い求めれば探すことができる神

　天地創造の神は、人間がまじめに、熱心に探しさえすれば、見いだすことが出来たはずです。そのように、聖書は語っています。ところが、残念ながら人間の熱心さが足りず、見つけ出すことが出来なかったのです。それで、見えない栄光の神を朽ちる人間や動物など、見えるものの姿に似せて、自分たちなりの礼拝の仕方や、儀式などを整えて、満足を得ようとしてきたわけです。

Ⅴ．わたしたちの近くにいてくださる神

　神は人間から遠くはなれ、人間に無関心な方ではありません。いつも人間の生活、人間の社会、人間の生き方、人間の幸せを気にかけていてくださる神です。神の望みは、与えられている命を喜んで、愛し合いながら生きる人間の姿をご覧になることです。

Ⅵ．わたしたちを内に生かしてくださる神

　神はわたしたちの近くにおられるだけではありません。じつは、わたしたちが神の内に生きている、生かしていただいているのです。全世界、全宇宙が神のうちにあるのです。天地を造られた神は、天地を神の外に、神から離れたものとして造られたのではなく、あらゆるところに満ち満ちておられる神ご自身の中にお造りになったのです。無限に大きな神に、「外側」はありえないのです。ですから、理神論の神などは、まさに愚かな人間の創造物にすぎないのです。

Ⅶ．無知の時代を見過ごしにされた神

　知らないままに神を礼拝する時代が長く続きましたが、神は恵みを取り上げてしまうことをせず、人間が天地創造の神に立ち返ることを、忍耐をもって待ち続けておられました。世界中の人々が神を知らなくても、神は世界中の人々をご存知で、もっと祝福しようとし

ておられ、その機会を待ち続けておられるのです。たとえ人間が間違った神理解をし、間違った礼拝の仕方をし、神以外のものを神とするようなことをしていたとしても、あえてそれを見過ごしにしてこられたのです。

Ⅷ．立ち返ることを求めておられる神

ここで用いられている「悔い改め」という翻訳は、少々きついと思います。この言葉は本来のギリシヤ語の意味である、「心を変える」とでも訳されるべきものです。※　パウロは、まったくの偶像礼拝者たちに語った、同じような状況のときにも、悔い改めるようにというよりは、天地を創造された神に「立ち帰る」ことを勧めています。（使徒 4：15）パウロがアテネで語ったのもそのような意味だったと思われます。分からないまま、自分たちの方法で礼拝してきた神をはっきり知って、その神をしっかり見つめて礼拝することです。つまり、礼拝している方、礼拝の対象となっている方をはっきりと定めて、感謝と賛美を捧げることを命じておられます。

Ⅸ．義をもってこの世をさばく神

神は、いつまでも世界をこのままにしておかれません。今の世界はいろいろな意味で崩れています。神は、この世界をきちっと裁き、新しい世界をお造りになるのです。ただ、滅ぼすのではなく、新しく造り変えてくださるのです。

Ⅹ．裁きを成し遂げるためにキリストを選ばれた神

そのために、選び定められたのがキリストです。キリストはすべての人、すべての生き物、すべてのものを正しく判別して報いてくださいます。わたしたちはキリストに「良いもの」として選ばれるために、天地創造の神を礼拝するのです。

パウロのアプローチは、現代の多くの宣教師や牧師たちのものとは違います。パウロの方法から、わたしたちが語るべき方法を学び取りましょう。ただし、パウロが語ったことすべてをそのまま語ることは出来ません。現代の日本人は 2000 年近くも前の異邦人とは違うからです。ただ、学ぶべきところがたくさんあるのです。

※　「悔い改める」と翻訳されているギリシヤ語は、もともと「考え方を変える」とい

う意味でした。それが、キリスト出現の数世紀前から、ユダヤ人たちの間で「悔い改め」という意味合いで用いられはじめ、旧約聖書のギリシヤ語翻訳でもそのように用いられ、新約聖書にもそれが及んできました。しかしユダヤ人の世界以外では、まだ、もともとの「考え方を変える」という意味で、用いられていたと思われます。アテネでのパウロの説教は、完全に異邦人に対するものですから、当然、ユダヤ的用い方ではなく、普通のギリシヤ語の意味で用いられたはずです。パウロは、異邦人の間で育ったユダヤ人ですので、そのような用法の違いを心得ていたはずです。